

ONAIR

NO. 101

放送大学通信 オン・エア

発行月 2011年3月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
043-276-5111(代)



CONTENTS

巻頭対談「新・学問のススメ」	1
皇太子殿下の行啓	6
アジア公開大学連合年次大会の2012年日本開催について	7
2011年度学部・大学院開設科目紹介	8
学習センターだより	12
海外での面接授業「English in シアトル」を開講	13
退任のごあいさつ	14
学園ニュース	17
インフォメーション	19

巻頭対談

文部科学副大臣

放送大学学長

鈴木 寛 副大臣 × 石 弘光 学長

生涯学習社会の
実現に向けて

新・学問のススメ

本年明けて間もない1月6日、石 弘光学長は、霞が関の文部科学省に鈴木 寛^{かん}文部科学副大臣を訪ね、対談いたしました。これからの生涯学習社会について、放送大学に求められる役割等について、闊達に交わされたお二人のお話、熱き思いを誌上にて紹介いたします。

※本文中は敬称略とさせていただきます。

いつでも、どこでも、誰でも—— 生涯学習社会とは 学習権の保障された社会

石 本日はありがとうございます。「ONAIR」は全国8万5千人の学生と放送大学の幕張本部を結ぶ大切な媒体です。部数も10万部を誇ります。そして、100号という歴史の重みも加わりました。今回の101号は、次なる100号の記念すべき第1号となります。そこで、それなら副大臣と新春対談を、という企画になった次第です。どうぞ、よろしくお願いします。早速ですが、生涯学習社会は、重要だ、今後ますます必要になる、といった論調で語られることが多いのですが、副大臣は生涯学習社会とはどのようなものとお考えでしょうか。

鈴木 私は、平成18年に日本国教育基本法の民主党



日本代表サイン入りボールを真ん中に、鈴木副大臣と石学長。

案を国会に発議しました。その際、私たちがキーコンセプトに据えたのは“学習権の保障”というものです。老若男女、誰もが自由に学習できるチャンス——いつでも、どこでも、誰でも、が教育政策の根幹だ、と。生涯学習社会というのは、まさにこの学習権が保障されている社会だと考えます。その意味で、放送大学は極めて象徴的な存在です。

石 放送大学は昭和58年に設置されましたが、その背景には高齢社会の到来とそれに伴う生涯学習ニーズの高まりといったものがあったのだと思います。戦後、「成人教育」とか「社会教育」といった言葉で始まったものが、このころから「生涯学習」とい

うものになっています。

鈴木 それまでは、学校教育と社会教育の2本柱でしたが、そういった学習ニーズの高まりを受けて昭和63年に文部省は生涯学習局を筆頭局にし、生涯学習社会というものを国を挙げて取り組むテーマとして掲げました。実は、私は「生涯学習振興法^{*1}」（平成2年制定）づくりに関わっています。当時、私は通産省産業政策局にいましたので。

石 通産省？ 通産省がなぜ関係していたのですか。

鈴木 「生涯学習振興法」は文部省と通産省の共管法です。生涯学習は、社会総ぐるみで達成すべき、経済・社会の極めて大きな要素だ、という位置づけ

でした。そこで通産省も参画したのです。

石 その法律ができたことによって、全国の地方自治体に生涯学習課が生まれましたね。

鈴木 都道府県知事が地域事情に合わせた生涯学習推進のための計画を作成・実施するというもので、地域主権の時代を先取り

したものでした。誰かが誰かに施す“教育”といった枠組みではなく、また公民館や図書館、美術館といったハコモノを整備するといった狭義のものではなく、“学び”の機会を整備する—つまり、自ら学ぼうとする人達がそういった社会教育施設に集まって作る“学びのコミュニティ”を支える、そして“学び”の成果を地域に還元しようという、まさに放送大学のありようを地域に広げたものでした。

石 放送大学ができる以前、終戦直後から通信制の大学はありました。当時「生涯学習」とか「遠隔教育」という言葉はなかったのですが、そういった社会ニーズに郵送という手段で応えています。今

やその手段は、TV・ラジオを経て、インターネット、携帯電話へと多様化しています。「放送大学」という名称が相応しいのかという議論、校名変更をという学生の声も聞かれます。外国では、Open Universityですが、今さら「公開大学」には変えられないな、と…。

鈴木 コミュニケーション手段の革新とともにメディアは多様化し、そのプラットフォームを使って学習の機会が保障される範囲が広がっていく。それは結構なことです。校名変更の話はあっていいと思いますが、その際にはあわせて、放送大学のミッションについて検討が必要だと思います。

高齢者の“学び直し”で地域力アップを。 放送大学を若い人の 再チャレンジの拠点に。

石 その新たなミッションという視点は、逆に言えば、放送大学に不足しているもの、となります。この点、何かご意見がありましたら。

鈴木 いえいえ、放送大学には十分満足しており、引き続き頑張っしてほしいと思っています。ただ、加えてお願いしたいのは…ご存じのように、日本の大学進学率は伸び悩んでいます。タイに抜かされ、韓国には1馬身以上離されている。これからますます知識社会、情報社会になって行く中で、高等教育を受けている人が5割程度でよいのだろうか、と。さらに都道府県別に見ると3割台が17道県もある。東京は7割、京都は6割、同じ国の中でこれだけ差がある。ですから、まずはこの17道県の大学進学率を上げたいと思っています。もちろん、“学び直し”の人も含めて。21世紀は知識基盤社会です。全ての人の“学び”“学び直し”というものがこの国の民主主義を発展させ、この国を元気にする必要条件だと思っています。大学というのは最先端の“知”を共有する開かれた場でなくてはなりません。しかし、一方で仕事や経済上の事情などで、大学に行けない人がいます。

石 一昨年の11月、さいたま市で「世界公開大学学長シンポジウム」^{*2}を開催しました。副大臣にもご出席いただきご挨拶を頂戴いたしましたが、その際改めて思ったのは、世界で公開大学への期待が非常

鈴木 寛 文部科学副大臣
1964年生まれ。東京大学法学部を卒業後、通産省に入省。シドニー大学特別研究員、山口県工業振興課長、電子政策課総括課長補佐などを歴任。1999年通産省を退官し、慶応義塾大学環境情報学部助教授に就任。様々なNPOの活動へ参加。2001年の参院選に東京選挙区より出馬し初当選。2009年9月より現職。

に高まっているということでした。どこの国にも、進学の正規のルートから外れる人がいます。アジアの発展途上国では、経済的困難から学校に行けない人が一杯います。そういう人たちにはやはり遠隔教育手段は重要です。タイの大学進学率が日本を超えた、とのことでしたが、タイには2つの公開大学があって、その寄与するところが大きいのです。逆に日本でも17道県は進学率が低迷している。その地域の、いろいろな意味で大学へのアクセスが難しい人たちにも遠隔教育手段は有用であろうと考えます。

鈴木 これからは、いろいろな分野で地域主権、現場主権ということがますます叫ばれてくるでしょう。国からの資源の再配分だけではダメな時代になってきています。どれだけその地域に有為な人材がいるかに、地域力がかかってきます。高等教育を受けることは、その人材の質を高め、地域力を高めることにつながります。

石 そういう意味では、放送大学の全国57カ所の学習センターとサテライトスペースの意義は大きいですね。地域に根ざした教育サービスを提供しています。海外のOpen Universityで50ものStudy Centerを持っているところはそう多くはありません。学習センターは私たちの財産です。そのため私はかねがね、地域主体で、学生目線で、と言っています。おっしゃる通り、地域力アップのために、地域コミュニティと生涯学習のドッキングのために――。ところで、放送大学では近年、60歳を超える人の入学が突出して増えています。団塊の世代がリタイヤして老後を考えたとき、趣味だけでは頑張れない。そこで“学び直し”を、ということでしょうが、このOpen Universityにおける高齢化は日本だけの特色です。他の国のOpen Universityでは若い人が主体です。日本では若い人は圧倒的に通学制の大学が中心になっています。

鈴木 60歳代の人々の入学が増えていることは喜ばしいことです。実は、私たちは“新しい公共”というコンセプトを掲げています。例えばコミュニティ・スクール^{※3}は、子どもたちの近くにいる地域のおじさん・おばさんをはじめ皆が、ボランティアとして学校づくりに知恵と力を持ち寄って、自立し社会に貢献する子どもたちを作っていこうというもの。

ですから公共の担い手として60歳代、70歳代の人への期待がすごく高いのです。これは学校だけではなく、病院づくりにも言えます。今まで産業社会・企業社会にどっぷり浸かっていた人を、いきなり学校の現場へ、病院の現場へというのは難しい。そこで、“公”とは何か、ボランティアとは？社会とは？といったことを教養も含めて学び直していただくと、真の新しい公共の担い手になると考えています。

石 放送大学では、平成18年に特定分野の専門知識を体系的に学べる放送大学エキスパート制度（科目群履修認証制度）を新たに設けました。すでに6,000名を超える人が認証状を取得され、地域で活躍しています。

卒業生共々、“新しい公共”の担い手となることを願ってやみません。

鈴木 ぜひ応援したいですね。ところで、話を一つ前に戻して、日本では若い人は圧倒的に通学制の大学に、ということですが

…実は、経済的な事情から、高校三年生の時に

願って受験し、不合格となってしまったが、浪人でもできないため、やむなく大学進学をあきらめてしまった、という人が最近増えています。数字の把握は難しいのですが、数万人規模、10万人を超えるとも思われます。力もあり、志もある。なのに大学に進めない。彼らの学習権を保障するのは国の責務です。私立も含めて授業料減免などの措置を講じていますがまだまだ十分ではありません。最近、放送大学で学んでいます、という若い人が私の周りにもいらっしゃいます。高齢者の“学び直し”、そして経済的困難から大学に行けない若い人たちを受けとめる大学として、放送大学に期待されるニーズは以前にも



石 弘光 学長
1937年東京都出身、経済学者。専門は財政学。1961年一橋大学卒業、1998年～2004年一橋大学学長。この間、米ミシガン大学、豪ニュー・サウス・ウェールズ大学などの客員教授を歴任。政府税制調査会会長ほか、政府の審議会の委員を歴任。2007年放送大学学長就任。

増して高まっていると思います。

石 放送大学への入学目的の大きな柱が学位取得です。大学卒の資格を取れなかった人たちが昔の夢に立ち返って入学してきます。それと、高校時にドロップアウトしてしまって引きこもりになるとか、社会で自らが進むべき方向を見失ってしまった人とかも放送大学に入学してきます。放送大学は、科目履修生として入学、16単位を修得し18歳以上であれば全科履修生になれるので、学位が取得できます。つまり中卒者や高校中退者でも大学が卒業できるので。放送大学に入って救われた、という人が数多くいらっしゃいます。こういうルートこそ放送大学には残しておくべきでしょうね。

鈴木 “再チャレンジがきかない日本”というのがいちばんの問題です。放送大学からもう一回チャレンジする——すばらしいことだと思います。

ニューヨークから世界へ——

放送大学に期待される“知の流通”のプラットフォームとしての役割

石 少し話題を変えて。副大臣はITに大変お詳しいと聞いておりますが、“放送大学とIT”という観点からどんな考えをお持ちでしょうか。海外のOpen Universityのいろいろな例を見ているのですが、例えば、私たちが範としている英国公開大学ではインターネット化をこれまで着々と進めています。放送大学も、IT化に合わせたビジネスモデルへの変革を迫られて来るとしています。

鈴木 “学び”に必要なのはメディアミックスです。Face to Faceも大事、レポートのやりとりも大事、インターネットや電波を通じて映像を見ることも大

事。ですから、学習する人の“学び”のタイプに応じてベストミックス、ベストカスタマイズできるかが問題になります。ただ、学習者の立場からすれば、動画や静止画、音声の質が大事なのであって、それが電波で来ているかインターネットで来ているかはあまり関係のない話です。確かに主力はインターネットに移行しつつありますが、我が国の高齢者層を見たときにインターネットの普及率は万全ではありません。ですから、当面はTV・ラジオが主体かと。今年の10月からBSデジタル放送を開始するとのことですが、“学び”のタイプの選択肢が増えてよいことだと思います。このようにメディアはマルチチャネル化していきますが、仮に遠くない将来、インターネットに集約されるとしても、それは世の中全体の趨勢として捉えればよいことです。何よりも、その質の確保——授業を作るノウハウ、映像とパッケージにするノウハウ、良い講師を集めて良いコンテンツを作る、といったことは一朝一夕にできることはありません。そういったソフトの部分のコーディネート・アレンジは放送大学のコアコンピタンス（Core Competency：競合を圧倒的に上回る核となる能力）であることは間違いなく、ここをさらに深めていくことは、これからも変わることのない放送大学のミッションだと思います。

石 OCW（Open Course Ware：大学の講義のインターネット上での無償公開活動）という発想が世界的な規模であり、放送大学も昨年10月JOCW（日本のOCW組織）に加盟しました。「公開」という点では、放送大学は昔からやってきたことですが、その中で培ってきたノウハウの部分でも応分の協力はしたいと考えています。

鈴木 情報社会論的に言うと、IT化が進むほどコミュニケーションのチャネルは意識しなくてよくなり、よりコンテンツが大事になります。Good Practiceを提供できるところが、デファクト・スタンダード（de facto standard：事実上の標準）を握る。その意味で、放送大学には、引き続き“知の流通”のプラットフォームとしての大きな役割を担ってほしいと思います。

石 その“知の流通”を加速せんと、ニューヨーク在住の日本人を対象に来年4月のインターネット配信



に向けて着々と準備を進めている最中です。海外にいても日本語で学びたい、というニーズがあるのです。

鈴木 すばらしいことですね。さらに日本語で日本のことを学びたいという外国人も対象に加えてよいと思います。Cool Japanと称される日本を、国際社会にアピールできる意義深いことです。

石 面接授業や試験は海外ではどうするのか、といった課題もありますが、電子掲示板やWebカメラ等のIT技術を使って双方向でやりとりできれば解決できるでしょう。早稲田大学では世界中の日本人学生を対象にeスクールを開講しており、一つの参考になります。このニューヨークモデルが成功すれば、他の国々でも展開でき、副大臣のおっしゃる日本の文化的なエレメンツを海外に、という役割も担えると思います。そろそろ時間が来てしまいました。最後に放送大学の今後10年に期待されること、学生へのメッセージなどをお聞かせください。

鈴木 今、私たちは歴史の大きな転換点に立っています。これを機にもう一度、新たな“知の体系”の中で学び直すということは、とても意味のあることです。私たちはこれを「新・学問のススメ」と呼んで推進しておりますが、そのためには学問がイノベーションされるのはもちろんのこと、“学び”の仕



最新著作「熟議」で日本の教育を変える」を手に鈴木副大臣と石学長

組みもイノベーションされなければいけません。そうやっていく中で、これからの10年というものは、全ての人たちが、外国人も含めて新たな“学び”のチャンスを獲得していくものであるべきだと考えています。これは世界人権宣言にも叶う話です。その一番の担い手として、放送大学には今後もより一層頑張っていただきたいと思います。そして、学生の方、卒業生の方には、放送大学と地域の“学び”のコミュニティの担い手として、放送大学の発展を応援していただきたいと思います。

石 心奮い立たされるメッセージ、ありがとうございました。

用語解説

※1 生涯学習振興法

正式には「生涯学習振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」で、平成2年施行の日本で初めての生涯学習に関する法律。生涯学習の振興に資するための都道府県の事業に関し、その推進体制の整備、その他必要な事項を定めている。従来、文部科学省に置かれていた社会教育審議会は生涯学習審議会に廃止統合され、都道府県生涯学習審議会をおくことができるようになった。

※2 世界公開大学学長シンポジウム

平成21年11月、さいたま市の浦和コミュニティーセンターで開催。世界10カ国の公開大学の学長や副学長が「生涯学習コミュニティの構築と遠隔教育の役割—国際的視点—」というテーマを中心に、2日間にわたって自身の大学の新たな取り組みについての発表や活発な議論を展開した。シンポジウムを通じ、学生への門戸拡充のためのポイントとして主にIT技術の積極的な活用、学習センターの拡充、海外展開、の3点がクローズアップされた。詳細はバックナンバー「ONAIR No.96」を参照のこと。

※3 コミュニティ・スクール

鈴木 寛副大臣が慶應義塾大学助教授時代に金子郁容教授とともに練り上げたコミュニティ・スクール構想をもとに、国会議員就任後に指定したモデル校7校で本格的な取り組みを開始。そのめざましい効果を国会で訴え続け、平成16年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により「学校運営協議会」（いわゆるコミュニティ・スクール）として制度化された。平成22年4月現在629校が指定され、全国規模へと拡大している。以下は鈴木副大臣のホームページより抜粋。「コミュニティ・スクールは、地域のおじさんやおばさんを始め、みんながボランティアとして学校づくりに知恵と力を持ち寄る仕組みです。すなわち、地域ぐるみで子どもを育てる学びのコミュニティです。ともすると閉鎖的になりがちな学校の風通しを良くし、子どもたちが多くの大人に出会う機会を増やすことで、将来の目標などといったあこがれや多様な相談相手との巡り合いを提供することが可能になりました。また、多くのボランティアの方々が生徒をサポートすることで、教師にとっても本業である「教えること」に専念できる、という効果もあります」。



皇太子殿下の行啓

皇太子殿下は、全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島 千葉大会」の開会式へのご出席に先だって10月22日、千葉県の地方事情ご視察の一環として放送大学本部を行啓されました。

皇太子殿下には、平成元年に挙行了した第1回の卒業式にご臨席たまわりましたが、放送大学本部をご訪問になったのは今回が初めてです。

当日は、御手洗理事長から放送大学で学ぶ学生数や設置している学部コース、大学院プログラムなどの大学の概要について説明を受けられた後、施設を視察されました。

施設のご視察は、広報番組である「大学の窓」や「授業



ハーサル風景を熱心にご覧になりました。一方、主調整室では、放送大学の放送システムの概要について説明を受けられた後、実際に放送状況を監視するための「総合モニター装置」や「操作卓」をご覧になり、「放送番組は何年ごとに放送されるのですか？」などと質問されました。

また、皇太子殿下は、石学長と6人の学生たちと懇談され、学生一人ひとりと言葉を交わされました。



(写真提供:千葉県総合企画部報道広報課報道室)



番組」の収録が行われている制作スタジオと、東京タワーや衛星に放送番組を送り出す役割をもつ主調整室の2箇所をご覧になり、制作スタ

ジオでは、青いスクリーンを使って自由に背景などを演出するバーチャルセットを体験されたり、スポット番組のリ

皇太子殿下を囲んで 学生懇談会

懇談会は、若葉会館2階の研修室で石学長と千葉学習センターで学ぶ吉野大さん、吉川郁乃さん、大城志正さん、山田由美子さん、布井一弥さん、山田政枝さんの6人が参加して行われました。

石学長が「本日は、ようこそおいで下さいました。皇太子殿下が21年前に放送大学の卒業式にお見えになった



(写真左から) 布井さん、吉野さん、吉川さん、石学長、山田(政)さん、山田(由)さん、大城さん

ときの写真もありますので、のちほどお持ちいたします」と申し上げますと、皇太子殿下は「若い頃ですね」とにっこりされ、緊張していた学生達からも笑顔がこぼれました。学生達はそれぞれ自己紹介をした後、皇太子殿下からのご質問を受けました。

この中で、放送大学で学び始めて8年目、子供2人も東京の大学に通っていて、家族3人が学生という会社員の布井一弥さん(社会と産業)は、皇太子殿下からの「若いときに大学で学ぶことと、一度社会に出て放送大学で学ぶことにおいて、何か違いはありますか」とのご質問に、「勉強不足が社会に出てから分かったので、根源的な人間の動きなどに興味を持ちました。マイケル・サンデルのような政治的なことについて学びたいです」と答えました。

また、介護と仕事を両立させながら学んでいる吉川郁乃さん(心理と教育)は「とても気さくにお話しされるので、非常に楽しい時間を過ごすことができました」と感想を述べました。

アジア公開大学連合 (AAOU) 年次大会の2012年日本開催決定!

放送大学教授 坂井 素思

今回のAAOU第24回大会では、2012年の第26回AAOU年次大会の日本開催という重要な決定がなされました。今大会には、石学長、岡部副学長、山田教授、奈良教授、国際連携係の二挺木さん、そして私の6名が出席し、10月26日から28日までベトナムに滞在しました。ちょうど首都ハノイは、李王朝が千年前ここに遷都したということで、ミレニアム祭真っ盛りでした。バイクが縦横に走り回る、街の大通りには赤い横断幕が張られ、至る所にお祝いの飾りがあり、クリスマスが早まったかのような昂揚した雰囲気でした。



空港に着いて真っ先に感じたことは、ハノイ公開大学の並々ならない意気込みでした。空港の荷物受け渡し場所にまで、ボランティアの教員や観光学部の学生たちが迎えに出てくださったのは印象深いことでした。日本語を学んでいるという男子学生のひとり、親切さと人懐っこさを振りまいて、その後も絶えず私たちを案内してくださり、会話も楽しむことができました。

AAOUの会場となったメリアホテルに、私たちは宿泊しました。このホテルは、ハノイの中心ともいべきホアンキエム湖から二通り隔てたところにあり、上の階からは湖とハノイ市内の見事な眺望を楽しむことができました。ハノイは昔「タンロン（昇龍）」と呼ばれていて、龍が地の底からぐっと立ち上がるイメージを彷彿とさせます。街にはベトナム人特有の笠をかぶった「竿に天秤」の行商人が果物やパンを売り歩く姿も散見されましたが、他方でホテル近くの電気街に象徴される、経済発展目覚ましい様子も見られました。

大会の第1日目には、理事会と一般会員総会が開かれ、石学長が出席しました。本学にとって重要な議決が二つありました。ひとつは、AAOU大会の2012年開催地に本学が選ばれたこと。もうひとつは理事の改選が行なわれ、本学は今回も理事に当選したことです。

大会の第2、3日目はセッション発表が行なわれました。セッションテーマは、「持続可能なグローバル学習社会を築くための公開遠隔教育」でした。このテーマは、従来の大会で見られたような統一的で目的志向の強いものでなく、これまでアジアの公開大学で行なわれてきた公開・遠隔教育活動（ODL）の多様な発展を振り返り、今後の動向を見つめようとする持続可能性重視の姿勢が現れた

ものでした。

今大会テーマはODLの多様性を重視する内容であることから、「イデオロギーと哲学」、「パートナーシップとコミュニケーション」などの5つのサブテーマが設定され、この流れにしたがって基調講演が行われ、さらに各セッション発表が画定されました。たとえば、マレーシアのワワサン大学のダナラジャン氏が「イデオロギーと哲学」についての基調講演で、遠隔教育におけるオープン性の意味を問う報告を行ないました。国際協力が行なわれている遠隔教育のオープンソース活動に評価を与えるものでした。本学の山田教授が行なったセッション発表は、このような流れを受けたものであり、本学のICT活用遠隔センターが進めてきた、教材の共有活動を紹介しました。

「教育連邦」副代表のカンワー氏が、ODLにおける「パートナーシップとは何か?」を問いかけ、公開大学はテレビなどのメディアや他大学などの社会機関との間で、パートナーシップを形成するが、それらは公式的な関係ばかりでなく、社会関係資本などを含む非公式的な関係も必要としていることを報告しました。また、本学の石学長も日本の放送大学内外のネットワーク網の意義について基調報告を行ないました。さらにこのセッションでは、本学の奈良教授が地域学習センターにおける面接授業の在り方について発表を行ない、私も他大学との単位互換制度の課題について報告を行ないました。岡部副学長が議長を務めたセッションでは、各国における遠隔教育のオンライン技術に関する発表が行なわれました。

セッションでの発表は2日間にわたり、100本を超える報告が5つの会場で発表されました。アジア遠隔教育の多様性を確認するに十分意義ある大会になりました。大会が終わって、ハノイの街を散策すると、見たこともない魚介や野菜の溢れたマーケットがあり、隣の織維間屋街

では、毛や綿や麻の生地がうず高く積み重ねられ、さらに百軒も連なる喫茶店街が見られました。ここでもアジアの多様性を十二分に堪能することになりました。



健康と社会（'11）

放送大学教授（生活と福祉）井上 洋士 東京大学大学院准教授（放送大学客員准教授）山崎 喜比古



井上 洋士 教授



山崎 喜比古 准教授

「健康」と「社会」。ふだんあたりまえのように使っているこの2つを結びつけた科目が「健康と社会」です。健康についての学問はこれまで、疾病や健康状態そのものの知識や理解が中心でした。しかし今後は人々が「健康への力」を身につけていくことが求められ、その方法を模索することが必要になるでしょう。そして、保健医療の専門家でなく市民・住民の立場であっても、保健医療の主体者、または賢いユーザー、良識のある社会人として考え行動していくことが重要だといえ

ます。本科目は、健康と社会とのかかわりについて、「健康」とは何か、「社会」とは何かといった基礎的な理解を深めるだけでなく、一社会人として「健康」と積極的に対峙する力を育む内容としています。また、放送教材では、多彩なゲストスピーカーの方が出演され、タイムリーな話題も含めて紹介していただきます。一人でも多くの方に受講していただくことを、講師一同心より願っております。

博物館概論（'11）

国立民族学博物館教授（放送大学客員教授）吉田 憲司



吉田 憲司 教授

博物館は、単なる過去の遺物の貯蔵庫ではありません。それは、過去と現在の知識と記憶を次代につなげ、未来を作り上げる装置です。その博物館についての学、「博物館学」の基礎をなすこの『博物館概論』では、現在の世界における博物館活動の最前線を展望するとともに、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を、理論、倫理、実践の各分野にわたって紹介します。

あらゆる面でグローバル化が進むなかで、新たな社会のあり方、新たな世界のあり方を見出すことが求め

られている今日、文化を構築する装置としての博物館の役割はますます高まっています。この講義は、将来博物館の実務に従事する方々には誇りをもってその作業に携わることのできる基礎を体得していただけることを、また知的関心から博物館を学ぼうとする方には、その現代文明における意義を簡明に理解していただけることをめざしています。この講義を通じて、博物館という装置の可能性を、改めて見つめなおしてみましょう。

技術経営の考え方（'11）

放送大学教授（社会と産業）東 千秋 国立情報学研究所准教授（放送大学客員准教授）柴山 盛生



東 千秋 教授



柴山 盛生 准教授

科学技術立国である日本にとって、現在、“いかにしてイノベーションを促進し、新しい産業や技術を創出するか”、この課題の解決が重要になっています。そのために、創造的な目標を掲げて、イノベーションを始動し、これを積極的に推進するMOT（技術経営）の視点が不可欠になっています。それには、教養として将来の技術を俯瞰的、総合的に考え、イノベーションを推進できる人材の育成が急務とされています。そのねらいで、平成20年度に放送大学エキスパート「ものづくりMOTプラン」が策定さ

れています。

本科目は、社会系と理工系をつなぐ共通科目として技術経営に関する基礎的な考え方を学ぶことを目的として、「ものづくりMOTプラン」の出発点となるよう企画されています。これまで、ビジネス系のMBAではビジネスリーダーへの入り口、また、技術系のMOTは、最先端の技術の導入に力を入れていました。ここでは、これらに共有される不可欠な知識を残して、より高い経営能力を身につける専門への入り口となることも目指しています。

企業・消費者・政府と法('11)

—消費生活と法—

放送大学教授 (社会と産業) 来生 新 大東文化大学教授 (放送大学客員教授) 山本 裕子



来生 新 教授



山本 裕子 教授

私たちが生きていくうえで、私たちはさまざまなものを消費しています。現代社会において人はすべて消費者たらざるを得ません。また、現代の消費生活を支えるさまざまな現象は、企業と政府との関係で消費者を見ることによって、深く、立体的に理解することが可能になります。この講義は、法律学の立場から、上記のような企業と消費者と政府の関係を、受講生の皆さんに理解してもらうことを目的とするものです。

放送大学は教養学部で、ほとんどの学生さんは法

律学の体系的な知識を持っている人ではないことを前提に、この講義では、法律学の入門的な議論から始めて、私たちの日常的な生活の中で、企業と政府の間に立って、市場制度を基本的に用いながら生活する消費者にかかわる諸問題を、歴史的な流れを重視しながら議論を進めていきます。

法律を知らない皆さんに、気楽に聴いてもらうことを期待していますのでよろしく。

舞台芸術への招待('11)

放送大学教授 (人間と文化) 青山 昌文



青山 昌文 教授

「今日はオペラに行く」と考えるだけで、心がわくわくする、そんな経験を、皆さんはしたことがないでしょうか。あるいはまた、「今日は、あの役者が出るので、早く歌舞伎を見に行きたくてしょうがない」と思ったことはないでしょうか。現代の日本では、歌舞伎や能などの伝統演劇、現代演劇や古典演劇、更には、オペラ、バレエ、ダンス、ミュージカルなどが、盛んに上演されており、その種類の多さは、世界でも有数です。ここには、実は、異なる時代や文化圏に生まれたものが平和的に共存

するという、大いに日本的な特徴が表れているのですが、本講義は、これらの多種多様な舞台芸術の魅力を、各分野の専門家の方々に、熱く語ってもらいました。私自身は、オペラやミュージカルなどについて、かつて実際に劇場で見、聴いた多くの作品への愛を込めながら、歴史的・社会的観点を踏まえた上で、語っています。皆さんも、この講義で、舞台芸術の魅力を改めて発見して下さい。

消費者と証券投資('11)

同志社大学教授 (放送大学客員教授) 林 敏彦

(公益財団法人)日本証券経済研究所 理事兼主任研究員 (放送大学客員教授) 佐賀 卓雄



林 敏彦 教授



佐賀 卓雄 教授

この科目は4年前、日本証券業協会による寄付科目としてスタートしました。だからといって、この科目では特定の株式銘柄を推奨したり、証券会社を宣伝したりはしていません。むしろ、客観的、抑制的に、アマチュアの投資家として消費者が資産運用を考えるためのポイントをやさしく解説しています。講師陣は金融・証券投資の理論や実践に詳しい研究者にお願いし、ゲストには第一線で活躍する多彩な人物にご登場いただきました。

2007年は団塊の世代が退職し始める年だったこともあって、この科目は毎年2、3千人が受講する科目となりました。この度の改訂にあたっては、4年間の金融市場の変化を取り入れ、印刷教材のデータをアップデートし、放送教材では最近の国債市場や米国サブプライムローン問題とその後遺症にも言及しました。この科目を通じて、ご自分の資産運用が世界経済にもつながっていることに思いを馳せていただければと願っています。

英語圏の言語と文化('11)

放送大学准教授
(人間と文化) 井口 篤

放送大学准教授
(人間と文化) 大橋 理枝

インド、南アフリカ、イギリス、アメリカ、トリニダード・トバゴ…。これらの国の共通点は何でしょう？ そうです、英語が公用語もしくは日常言語として使用されている国だということです。私たちは英語を学習する際に、ほとんど必ずと言っていいほどイギリスあるいはアメリカの言語文化を模範とします。しかし、「英語が国際語である」のならば、この二つの国だけに着目していいはずはありません。

本科目で私たちは、多様な国の作家たちによって書

かれた文学作

品を読みながら、英語という言葉、そして英語による文化活動が世界各地で連綿と続けられてきたこの驚くべき事象を追いたいと思います。私たちの旅路はまずロンドンで始まり、アメリカの東海岸にしばし滞在した後、中国を通り抜け、トリニダード・トバゴ、インド、南アフリカ、アフガニスタンなどを経由し、最後は日本へと帰ってきます。この科目をきっかけとして、受講者のみなさんが自分自身の英語と出会っていただけたらと願っています。



井口 篤
准教授



大橋 理枝
准教授

高齢者の生活保障('11)

北海道大学大学院教授
(放送大学客員教授) 金子 勇

今回の「生活保障('11)」は福祉関連の制度解説を極力避けて、むしろ家族や地域社会のなかで、高齢者自身のライフスタイルにみられる伝統の良さや創造性などを発掘するように努めました。

高齢者の生活は、独居から他者の支援を受けての施設の中での暮らしまで、幅が広がっています。日本で初めての試みとして、自立高齢者も要支援・要介護の高齢者も包括する支援枠組みを自助、互助、共助、公助、

商助に分けて、総合的な生活支援

という角度から、サクセスフル・エイジングを考えました。15回の講義では、それを理解するための素材がたくさん紹介されています。各章の執筆者が、全国各地における独自の調査と研究を進める過程で、新しく発見し収集した結果を図表や箇条書きで簡潔に整理しています。本講義内容をヒントにして、人生後半期の毎日を元気にお過ごしください。



金子 勇
教授

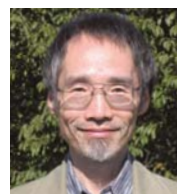
精神分析とユング心理学('11)

放送大学教授
(心理と教育) 大場 登

慶應義塾大学准教授
(放送大学客員准教授) 森 さち子

フロイト,S.に始まる「精神分析」とユング,C.G.に始まる「ユング心理学(国際的には分析心理学と呼ばれます)」は、心理的な困難や心身のさまざまな症状を抱えて苦悩する方々(クライアント)との心理療法という営みの中で、現在も日々、人間の心に関する「臨床の知」の探究を続けています。

この心理療法という「器」の中に現れ出るさまざまなイメージやモチーフ、活性化される無意識に導かれて生まれてくる夢やイメージーション、クライアントとセラ



大場 登
教授



森 さち子
准教授

ピストとの間で交わされる言葉及び非言語的やりとりを通して展開されるプロセスといったものは、「そのクライアントとセラピスト」固有の、非常に独自なものであると同時に、他方、神話・昔話・民俗・儀礼・宗教・文学・演劇・絵画・哲学といった、「人間」に関する古来の「表現」「知」とも深いつながりをもった普遍的なものでもあります。「無意識の発見」を共有する精神分析とユング心理学ですが、深い溝(?)もあります。乞う、ご期待!

現代教育改革論('11)

—世界の動向と日本のゆくえ—

立命館大学教授
(放送大学客員教授)

江原 武一

京都大学大学院准教授
(放送大学客員准教授)

南部 広孝



江原 武一
教授



南部 広孝
准教授

この科目は、現在世界各国で行われている教育改革に焦点を当て、国際比較の視点から、国際機関からの提案や国際的な動向といったグローバルな潮流を整理するとともに、諸外国の対応や取り組みについて考察し、それらを手がかりにして日本の教育改革のあり方を探ることを目指しています。ただしそれは、日本と諸外国の取り組みを比べてどちらが優れているかを判断したり、諸外国のある対応をことさら「優れた」ものとして紹介したりすることを意図しているわけではありません。

というのは、この科目では現代日本の教育が直面している課題に対して性急に処方箋を求めるのではなく、国際的な動向や各国の対応をふまえて、そうした教育課題や現在進められている教育改革を相対化し、より望ましい解決策を構想する方が、日本にふさわしい教育改革の方向性や内容を見出すことができると考えているからです。日本の教育改革に関心のある人びとにとって、この科目の受講が何らかの手助けになることを願っています。

20世紀中国政治史研究('11)

放送大学教授
(社会経営科学プログラム)

西村 成雄



西村 成雄
教授

中国にとっての21世紀は、2001年12月のWTO加盟から始まったと考えられます。

国際的経済ネットワークに「能動的」に順応するなかで、現代中国の政治と経済の質が問われる新たな段階に到達したわけです。実は、20世紀中国の始まりも1901年9月「辛丑和約」締結で、国際的政治ネットワークに「受動的」に組み込まれる現実がありました。その後1949年の政治的転換を経て、最後の四半世紀で経済的な発展段階に入りました。

ここでは、この100年中国の政治的変動過程を三つ

の視点から解明しようとしています。第1の視点は、変動する中国の政治的正統性がどのように形成され社会を再編したのか。第2に、社会の側がそれをどれほど受容し、また抵抗するなかでどのような新たな正統性を主張する政治勢力が台頭したのか。第3に、国際的条件が中国政治の正統性問題にどのように作用していたかです。20世紀という歴史空間から、21世紀段階の中国を内在的総体的にとらえかえす新たな視点と、その歴史的連続性の特徴を、検討したいと思います。

現代地球科学('11)

岐阜大学教授
(放送大学客員教授)

川上 紳一

名古屋大学名誉教授
(放送大学客員教授)

藤井 直之



川上 紳一
教授



藤井 直之
教授

この科目は、地球環境科学('05)に続くもので、今日の地球環境問題を考える基礎として、人類が地球という惑星について、どのように理解を深めてきたのかを取り上げる。記載分類を中心とした博物学から出発した地球科学は、1960年代のプレートテクトニクス革命を経て、システム科学として総合化されてきている。1980年代以降は、地球内部ダイナミクス、惑星科学、地球史と生物進化、気候変動、宇宙からの地球観測などの分野で目覚しい

進歩を遂げて

いる。こうした最近の動向について、高圧実験施設や南オーストラリアの化石産地、天体衝突構造からのレポートをとりいれて、研究現場に密着しつつ、専門的な立場から地球環境の成り立ちと変動のしくみを読み解いていく。我々は何者か。どこから来て、どこへ向かうのか。こうした今日的問いかけに、地球環境と生物の変遷を学ぶなかで、考える糸口が見えてくるのではないのでしょうか。

松籟を聞きつつ学ぶ新潟学習センター

新潟県は米どころ、酒どころとして知られる一方、佐渡にはトキの保護と増殖を目的とした「佐渡トキ保護センター」があり、昨年11月には3回目の放鳥を終了しました。大河、信濃川と阿賀野川が日本海に注ぐ新潟市は古くから港町として栄え、幕末の日米修好通商条約による開港五港の一つになりました。新潟市は約81万人（県の人口の約3割）の人口を擁し、2007年に本州日本海側で最初の政令指定都市になりました。

新潟市に新潟学習センターが設置されたのは1994年、現在の校舎は2000年に新潟大学旭町キャンパスの新潟大学附属図書館旭町分館との合築により竣工されました。新潟市のほぼ中央の恵まれた学習環境の中で、現在、1,332名が学んでおり、これまでに788名が教養学部を卒業し、64名が大学院を修了しました。

松籟会と同窓会

当センターにはセンター所属の全学生で組織する松籟会と卒業生約170名で組織する放送大学新潟同窓会があります。同窓会は2003年に結成され、会員相互の親睦をはかる一方、公開講演会を企画・立案するなどの活動で学習センターを支援しています。

松籟会は学生が交流、親睦をはかり、相互に啓発し合うことを目指して1999年に結成され、新入生の歓迎会、学生交流会、

納涼会、新年会、学園祭そしてセンターと共催の研修旅行など、その活動は活発です。学生交流会は懇親の場もありますが、同窓会の協力を得て先輩から卒業論文の書き方や論文内容を聞かせてもらう勉強の場もあります。

学園祭は、各自が絵画、書道、俳句などの作品を持ち寄って展示する他、茶室コーナー、コーラスサークルや音楽愛好家の発表会、バザーなどで賑やかです。

毎秋、バスを仕立てて出かける研修旅行も楽しい行事の一つです。一昨年は、越後を舞台にしたNHKの大河ドラマ「天地人」にあやかって、上杉家ゆかりの米沢に出かけました。昨年は、「糸魚川ジオパーク」を訪ね、糸魚川市内を南北に走る糸魚川－静岡構造線はフォッサマグナの西の境目であること、この境界を挟んだ西側と東側の地層には約5億年の年代差があること、そして東側の古い岩石のひとつが翡翠であることや翡翠文化の歴史について学びました。

学生研修旅行



学生サークルにはコーラスサークルと心理臨床研修会があり、いずれも活発に活動しています。コーラスサークルは学位記授与式や入学者の集いで学歌を斉唱し、卒業生や新入生に感銘を与えています。

学習センターの活動と行事

新潟学習センターには7名の客員教員がおり、面接授業、学習指導・相談、講演会、オープンキャンパス、卒業論文や修士論文作成の助言などで活躍しています。また、客員教員の専門性を活かした「勉強会」を開催しています。普段、孤独な環境で学習する学生にとって、勉強会は教員とじかに顔を合わせて楽しく学べる場であることから、多くの学生が参加しています。

2010年、当センターでは在学生の学習を支援し、放送大学の学びの輪をさらに大きく広げるため、冊子として「学びの体験記」を刊行しました。



新潟学習センター

〒951-8122 新潟市中央区旭町通1番町754（新潟大学旭町地区内）
JR新潟駅からバスで15分 電話：025-228-2651



鹿児島学習センター 海外での面接授業 English in シアトル を開講

鹿児島学習センター 所長 竹田 靖史

2010年1月、お抹茶の会での学生さんの一言が、まさか実現するとは誰も予想しなかった。多くの方々のご支援により10月、旅程7泊8日で開講。

平均年齢58歳（22～80歳）、7県の学習センターから受講生25名（共修生2名、希望者は70名超）がソウル・インチョン国際空港に集合、そしてシアトルへ。ベルビューカレッジでネイティブ講師から英語を学び、自由時間は路線バスでベルビューやシアトルのダウンタウンに出かけて英会話を実践。意欲的・積極的な挑戦は、「すごい！」の一言。ガウンをまとい角帽をかぶって修了証書を受ける上気した満面の「笑み」は



修了式を終えて

の「笑み」は今まで見たことがない。狭いホテルの一室に全員が集まったの「さよならパーティ」では、飲み物とスナックを持ち寄る。ぶ厚いアメリカンステーキも頬張る。デザートはアイスクリームとお抹茶。熱い交流、弾ける嬉しさと楽しさで一杯！「今までと違う私を見て」と。

＜担当講師、カレッジとの架け橋役＞ 心に抱き続けてきたIndian Rainbowが、太平洋上の現実の「虹の橋」となった。いま改めて人を信じることの素晴らしさと「平和」の意義をかみしめる。万歳！奇跡のサンシャイン（滞在中が、まさかの快晴）！

＜受講生＞ ○度胸があれば通じる。○英語は気楽に学ぶといいことがわかった。○英語を、五感を使って学習した。○質問をわかって聞いてくださった。○異文化を肌で感じ学習の大切さを知った。○アメリカの懐の大きさ、豊かを実感した。○この素晴らしい体験を子供に伝えた。早速留学を考えだした。○耳にした「May I



自作のオリジナルjournalを披露

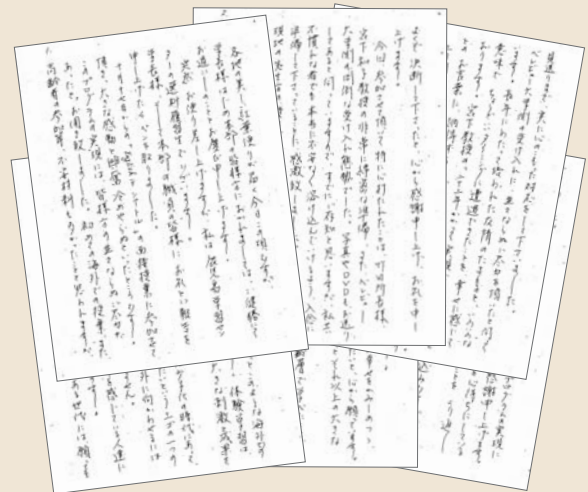
help you ?」を日本でも心がけたい。○自由行動1日目。ダウンタウンへはどのバスに乗るのか、降りてどの方向へいっ



シアトルダウンタウン(市場にて)

たらよいのかよくわからない。道を聞くと、皆とても親切に教えてくれた。○2日目。今日はスムーズに帰れるかと思っただが、やはりダメ。バス停まで案内してもらう。お礼を言うと「自分も外国で親切を受けるから」と笑顔で。○さすが3日目、バスはOK。ミュージアムで、ダメ元で「学生です」といって学生証を見せたら、あっさりと学割料金に。なんでも挑戦が大事。○自分ですべてをしないといけないことが、一番いい経験だった。「English in シアトル」は、私の宝物。○放送大学の存在の大きさを改めて知った。

● 参加した学生の方からのお礼状 (学長宛)



抜粋:「English in シアトル」の面接授業に参加させていただき、大きな感動と興奮冷めやらぬといったところです。乏しい英語で必死に理解してもらおうと、悪戦苦闘しましたが、現地の人々の温かさ、親切に触れる絶好の機会ともなりました。80歳を頭に20代の若者まで幅広い年齢層で学べたこと、全国からの参加者との交流ができたことも、放送大学ならではの喜んでいます。

退任にあたって

生活と福祉 教授 中谷 延二
生活健康科学プログラム

生涯学習機関の放送大学での7年間は、私にとりまして大変貴重な経験でした。暖かく支えてくださいました諸先生方、事務職員の方々に厚く御礼申し上げます。面接授業、卒論、修士論文研究で多くの方々にご目にかかれ、充実した日々を過ごさせていただきました。数多く担当させていただきました面接授業の場や放送大学と地域と連携した生涯学習講演会などでは、受講者の「知」への真剣な取り組み姿、眼差しから深く感銘を受けました。私も「知ることは喜び」をモットーに探求心を充足させていきたいと念じております。

石学長が旗示されたAction Plan 2010が充実し、早期に実現して放送大学がますます発展されますことを祈念いたします。有り難うございました。



退任のあいさつ

生活と福祉 教授 多田 羅 浩三
生活健康科学プログラム

放送大学は、歴史的な使命をもった大学である。全国の各地から学生が入学し、学生は自ら科目を選んで、自らの学問の道をつくり、自ら歩む。まさにそこには大学というものの、本来の姿が示されているように思える。そういう大学で、仕事ができただけで、これほど誇らしいことはない。教材作成では、とくに放送教材の作成では、電波にのることによって直接、学生、そしてさらに無数の人々のところへ、メッセージを送ることができる。これほどありがたいことはない。面接授業でも、多くの学生に迎えられて講義をすることができた。卒論作成でも、修論作成でも、自らの地域や職場において直面している課題を題材に、学生は意欲的な論文をつくりあげていった。決して他を圧するというものではないかも知れない。しかし、現場の固有性とリアリティに支えられた力強さが、そこにはあったと思う。このような職場を去らねばならないことは、誠に残念である。その役割の大きさに対し、十分、その責務を果たすことができなかったことをお詫びし、放送大学のますますの発展を祈念して、退任のあいさつとさせていただきます。



勇気とパワーをくださった皆様に感謝

生活と福祉 教授 高崎 絹子
生活健康科学プログラム

放送大学での経験は、振り返ってみますと、これまでの私の長い職業生活でも最も刺激的な体験のひとつでした。4年前、私は放送大学ではただ1人の看護教員として就任することになりましたが、まず、多くの学生さんが働きながら孤独な環境の中で熱心に学習を続けておられることに、深い感銘を受けました。しかし一方、教育者としては通信制教育の方法や提供システムに戸惑ったり、放送教材の作成から成績評価までの複雑なプロセスに慣れることに苦労しました。また、現在日本には188もの看護系大学がありますが、教養教育を標榜する本学にも看護師等の資格をもつ学生が、学士課程に約1万人、国家試験受験資格取得プログラムに約1万人が在籍し、大学全体の約3分の1を占める実態を知ったときは、私の責任の重さに押し潰されそうでした。その後就任された井上先生や関係者の方々との協力による調査の実施、報告書の作成等を通して、改革を提言してきました。おかげさまで様々な教育環境の改善が行われました。これも執行部や関係者の先生、事務職の方々のご理解とご支援の賜と心から感謝しております。



あっという間の10年間でした

心理と教育 教授 滝口 俊子
臨床心理学プログラム

教材の作成、卒業研究指導、修士論文指導、本部をはじめ各地での面接授業。コーディネーターとしての、各種委員としての、諸活動。ほんとうに、いろいろありました。月日の過ぎ去るのが速かったことに、驚いています。学外でも、審議会や学会などで多用な時期でしたので、無我夢中なうちに過ぎ去りました。健康が維持できたことを、嬉しく思っています。思えば、放送大学大学院への就任を誘いに自宅まで訪ねてくださった、前副学長麻生誠先生の優しさに出会わなければ、転任を決心していなかったかと思います。スタートしたばかりの京都文教大学大学院の仲間たちと、臨床心理士の養成に燃えていましたので。

苦楽を共にした臨床心理学プログラムの教員はもちろんですが、研究補佐員の長井典子さん・濱田佳子さんには、こまやかなお世話をいただきました。ありがとうございました。

放送大学を退職後も、社会的な活動は変わりませんし、延び延びになっている単著も書き上げたいと思います。時間的な余裕がなくて出来なかった卒業生や教職員の皆様との交流も、楽しみにしています。今後とも何卒よろしく、お願いいたします。



出会いと発見の日々

社会と産業 教授 天川 晃
社会経営科学プログラム

放送大学に勤務した9年間は、新たな出会いと発見が続く日々でした。私は2002年にスタートした大学院で「地方自治」関係の科目を担当してきました。毎年入学してくる10名前後のゼミ生は半数以上が現役の自治体職員や議員の方で、残りが年齢も職業も多様な背景の人々です。これらゼミ生と学部卒業生、それに自発的に参加するOB・OGが、毎月神奈川学習センターに集まり、日本内外の政治・行政の歴史や現在の諸課題の勉強を重ねてきました。教室での議論が終わっても、近くの居酒屋でのセッションが続きます。いつからかゼミ生の地元の自治体の実態を見学する夏合宿が恒例化し、「ゼミは『知の道場』」とする「心得」もできました。こうしたゼミの仲間や面接授業で真剣に学ぶ学生さんに接するうちに、「放送大学で学ぶ人たちがこそ日本を根っこから支えている人たちだ」と確信するようになりました。放送大学を通じて全国各地の素晴らしい人々に出会ったことに深く感謝しています。



瞬きする間の8年間

社会と産業 教授 鈴木 基之
社会経営科学プログラム

2003年に着任致しました。通常の大学とは異なる態様に戸惑いもありましたが、小規模でも多彩で多才な先生方との出会いは新鮮で楽しいものであり、またお付き合い頂いた院生、学生の方々は、それぞれの道における達人であり、追求心に満ちた方々で、私自身が多くのことを学ばせて頂きました。修士論文約60篇、卒業研究約30件の方々とゼミでの出会いは、それぞれに思い出深く、「これぞ放送大学」と誇れるものも多く、まさにこれらの方々を初めとし、多様な学生、大学院生が隣り合って努力をしながらそれぞれが何かを達成していく姿こそが、この大学の今後にとっての貴重な資産でありましょう。私自身は十分なお手伝いが出来たとは思いませんが、手許にファイルとして残っている全ての論文は、誠に大切な記録となりました。ゼミを修了された方々が中心となって作られた「放送大学環境研究会」が世田谷学習センターを中心の場として活発に活動されていることも嬉しいことです。あっという間の8年間、皆様に大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。



去るもまた楽しからずや

自然と環境 教授 生井澤 寛
自然環境科学プログラム

外国を入れて、勤務した大学は、6箇所、勤務回数は7回あるから、放送大学での定年で、7回目の「さよなら」を迎える。かくしてさよならには慣れたので、毎回、何が後に来るか楽しみであり、終わったら何をしようなどと構えないことにしている。生来、手を抜くことが苦手なので、放送大学でも、めいっばい研究・教育、校務に励んで5年が過ぎた。赴任以来3年間で、毎年2科目計6科目の放送(TV)・印刷教材の作成に、主任講師として当たった(5年間で8科目)。特に2年目の秋に大学の集団検診で胃癌が見つかって、'08年2月に手術をしたが、退院4日目には、大学に出てフルに仕事した。印刷教材を仕上げるためである。締め切りに間に合わず、その年の12月4日に学長室に呼び出され、学長および2名の副学長の膝詰め談判にあった。このとき学長から、間に合わなかったら腹を切れ、と迫られたが、もう腹は切ってしまいましたと答えたら、じゃー俺が切るか、といわれたことが忘れがたい思い出だ(印刷教材はなんとか間にあったが、学長は後にやはり前立腺癌で腹を切った(手術した)と伺った)。



ご挨拶

自然と環境 教授 星 元紀
自然環境科学プログラム

46年にわたる教師生活の最後を迎えるにあたり、お世話になった内外の多くの方々に、心よりお礼申し上げたいと思います。一番古い記憶が、病院の中庭の池を泳ぐ赤い金魚というほどに病弱であった子としては、青年期に至るまで、自分が大人になれるかどうかとも怪しいと思っていましたが、時は流れいつの間にか老人と呼ばれることに相成っておりました。空襲、すべてが壊れたような銀座、浮浪児と傷痍軍人の群れ、始めてみるテレビジョン、微かに光るスプートニク、安保、学園を吹き荒れた嵐、コンピュータと携帯、そして高度成長とバブルの崩壊と、時の流れの速さに只々驚くばかりです。この間、一寸の光陰を軽んじてきたことを悔いていないといっは嘘になりますが、本人にとってはおおむね愉快的な日々を重ねることが出来ました。しかし、最後の最後に至るまで、どれだけの皆様にご迷惑をおかけしてきたことかと、いまさらながらに顔厚忸怩たらざるをえないところであります。本学が、日本からはほぼ一掃されてしまった「教養」教育の理念に基づき、「教養学部」の灯火を高く掲げて、さらにさらに前進することを祈念しております。皆さん有難うございました。



退任の挨拶

心理と教育 准教授 山口 義枝
臨床心理学プログラム

放送大学での4年間では、放送教材の作成、印刷教材の執筆をはじめとして、さまざまな新しいことに取り組みさせて頂きました。特に放送大学ならではの面白さを感じたのは、面接授業での学生の皆さんの反応の多様さです。面接授業では、一つのことを投げかけると、学生の皆さんの中で何倍にも膨らんで積極的な反応が返ってきます。その中には経験に即した質問も多く含まれており、準備した授業内容よりも話が広がって展開していきましました。教育者として経験の浅い私は、「教える」「学ぶ」とはどういう交流の場を作ることなのかを、放送大学の先生方や学生の皆さんとのやり取りから学ばせて頂いたと言えます。この経験を今後の仕事に活かしていきたいと思っています。

様々な年代の方達と出会えた放送大学と、この4年間にお会いした全ての方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



南の島から

ICT活用・遠隔教育センター 特定特任教授 平野 秋一郎

eラーニングを追いかけてきました。時に期待し、時に落胆しながら、教育や学びの変化を見続けてきました。内外の事例を調査し、「なるほど」と納得したり、「そんな教え方が」と驚いたりしながら記事や報告書をまとめました。UPO-NETプロジェクトではeラーニング教材作成に参加しました。理解しやすい教材とは、より深い理解にはどんな情報を提供すべきかなど、他の実践を見るだけでは分からないポイントが見え、刺激的でした。

同時に、eラーニングには、いつも足かせを感じていました。ICTと教員の距離です。ICT側は「あれもこれも」と先ばかり見、教員側は変化を厭う。一緒に新しい学びをデザインし、新しい学びの形を想像する場面に出会えることは多くありませんでした。教育改革とは教員が変わること、と考える私には残念なことでした。しかし、UPO-NETでは放送大学の先生とともに教材づくりをスタートできました。これは改革の芽です。どう育つか、南の島から見続けたいと思います。



茨城学習センター 朝野 洋一

30年間勤めた大学の研究室から僅か百数十mにあるセンターでの生活は、自宅からも近く、教授会・委員会など長時間の拘束はなく、レンタカーで走り回る広報活動を除けば申し分ない3年間でした。地元に住み地元で活躍する(した)多くの学生のみなさんと知合ったこと、若い均質な学生相手とは異なる授業・学問の在り方を考えさせられたことは、私の大きな宝です。学習センターを核とした放送大学文化が育つといいなと願っています。



埼玉学習センター 毛利 信男

大自然の摂理のほんの僅かを垣間見ることに夢中となって、多くの共同研究者と喜びを分かち合った40年間の研究生活から離れて、この5年間、生涯学習の場としての放送大学で素晴らしい学生・同窓生諸姉諸兄と出会い、自分の人生にとって掛け替えのない時を、共に過ごすことのできたことに感謝している。入学者の集いでの真摯な顔々、卒業証書・学位記授与式での満面に浮ぶ心からの喜び、面接授業で、図書室で、サークルで、みなぎる生きる力々。一生忘れ得ない。お陰さまで、自分もこれからの行く道を見つけ出せた。学習センターに身を置いた者に与えられる福音なのかもしれない。祈る・大願成就。



東京多摩学習センター 新井 皓士

百年前の自分は?と、ふと考えてみた。ハレー彗星騒動、大逆事件疑惑、デカンショ節流行といった時代だが、「代謝」活動をする自分は未だ存在していない。百年後とて同様、まず確実に存在しないが、ゲノム・DNAを通じて息子共の子か孫に一部「再生」しているかもしれない。放送大学? これは人類「文化」の1形象としてひょっとすると猶存在しているかも!? まこと個々のホモ・サピエンスにとって「サヨナラだけが人生だ」。では…



富山学習センター 渡邊 裕司

平成19年4月から4年間、放送大学で貴重な体験をさせて戴き有難うございました。1年目から大学の宣伝活動に努めましたが、センターの学生数は減少し続け、やっと下げ止まりました。年齢や職業とは関係なく、どなたも学習熱心なのは頭が下がります。他方、面接授業のある週末、センターの窓から大勢の人達がパークゴルフを楽しむ姿が見えます。運動と学習をバランスよく実行することが若さと健康を保つ秘訣でしょうか。私も放送大学での学びと運動を長く続けたいと思っています。



三重学習センター 菅原 庸

放送大学で勉強しておられる学生さんたちは、年齢や経歴も実に多様ですが、面接授業にも非常に熱心です。面接授業を担当された多くの非常勤講師の先生方は、学生さんたちから大きな刺激を受けたと感じておられます。また、ひとつひとつ単位をとりながら、卒業をめざして勉強を続け、放送大学での勉強が生きる支えとなり、病氣と闘っている学生さんもおられます。それが放送大学のひとつの現場です。平成17年より6年間の在任中、放送大学の教職員、学生さんたちなど、実によくの方々にお世話になりました。みなさんありがとうございました。



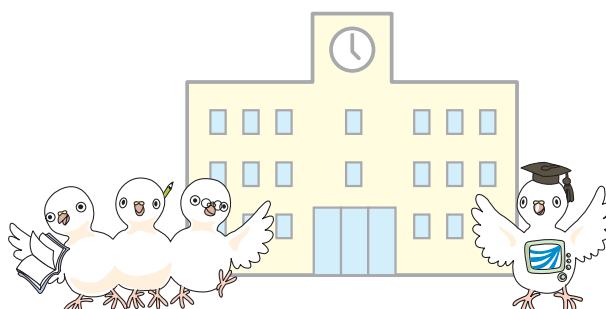
愛媛学習センター 讃岐 幸治

愛媛大学を退職後、5年間にわたって楽しく勤めさせていただきました。最も驚き、感動したことは、必死になって学んでおられる学生さんたちの姿でした。ただ年齢や経歴などはさまざまなのに、学生さんが各人の経験や見識を出し合い刺激し合う機会が少ないことが気になりまして、学生さんの体験談などを収録した『放送大学を楽しむ』、『放送大学を活かす』を出版したりしました。学生中心の大学として、ますますの発展を祈念します。



鹿児島学習センター 竹田 靖史

放送大学の不思議な魅力は放送授業にある。卒業して身についた「学ぶ慣性力」で他コースに編入して教養を広げ深める。全コースを卒業してグランドスラムを達成、それでもすべての科目を学びきることはできない。一方、卒業研究に取り組み大学院修士課程へ進学、論文をまとめてさらに挑もうとしても博士課程がない。国際化をめざす放送大学に「博士課程」の設置は当然であり、学生さんの誇りとなる。優秀な教授陣がいるのだから、早期実現を望みたい。



放送大学叢書刊行10点突破 記念トークイベント

放送大学が生み出した最大の知的財産の一つと言える印刷教材（テキスト）は、授業科目の閉講と共にその役割を終える仕組みとなっています。

しかし、授業科目を担当する先生方が、その優れた研究業績を基に時間とエネルギーをかけ、文字通り精魂を込めて執筆した印刷教材が、授業科目の閉講とともに日の目を見なくなってしまうことは、社会にとって大きな損失と言えます。

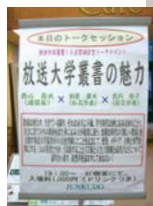
そこで、著者の先生に新たに生じた知見を補筆してもらうとともに、より読みやすい叢書に再編集しあらためて世に送り出すことで、授業科目閉講後も放送大学の教育研究成果を広く社会に還元していくことを目的として、放送大学叢書の刊行を開始しました。

2009年3月に最初の3冊を刊行して以来、2ヶ月に1冊ずつのペースで刊行を重ね、2010年5月刊行の『〈中国思想〉再発見』（溝口雄三著）をもって、遂に10点を突破するに至りました。刊行が10点を超えたことで、常設棚を設ける書店も増加し、放送大学叢書は、新書・選書のシリーズのひとつとして着実に定着しつつあります。

このたび、刊行10点突破を記念して、10月7日（木）19時から、東京・池袋のジュンク堂池袋本店において、放送大学叢書刊行10点突破記念トークイベントを開催しました。

放送大学叢書を立ち上げる際のプロジェクトチームのリーダーであり、本学名誉教授の柏倉康夫先生、元本学教授・東京大学名誉教授で建築家の香山壽夫先生、本学教授の島内裕子先生の3名の著者に、「表現すること」、「芸術と人生」、「情報と読書」、「人生の真実」などをひもときながら、「放送大学叢書の魅力」について存分に語りいただきました。平日の夜であったにもかかわらず、同窓会の皆さんや先生方の科目を履修されている学生さんをはじめ多くの方々にご参加いただき、定員50名程の会場はすぐに満席となりました。

参加者の皆さんは、心に残った言葉をメモしたり、



また、時には微笑みながら、先生方のお話に熱心に耳を傾けられ、会場内は大変な熱気に包まれていました。

トーク終了後、先生方と参加者の方々とのフリーディスカッションが行われ、盛況のうちに閉会となりました。閉会后、参加者の方々は思い思いに先生方と談笑され、名残惜しそうに会場を後にされました。

こうしたトークイベントは初めての試みでしたが、放送大学叢書を応援して下さっている皆さんにお会いし生の声を聞くことができ、叢書関係者にとっても大変感慨深いイベントとなりました。

放送大学叢書は、1人でも多くの方々に学ぶ楽しさを知っていただくべく、これからもあらゆる学問分野をカバーしながら、20点、30点突破を目指し一步一步着実に前に進んでいきます。

放送大学叢書は各学習センターにも置いてありますので、叢書をまだご存知ない方がおられましたら、是非一度手にとってページをめくってみて下さい！

放送大学叢書既刊ラインナップ



くわしくは放送大学ホームページをご覧ください。

http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/sousyo/index.html

3夜にわたって 公開講座を開催

新春・公開講座

「2011年日本を取り巻く世界の緊急課題」

止まらない円高、盛り上がらない内需、改善しない雇用情勢と若者の就職難。民主党政権への失望と米国、中国という世界1、2位の経済大国に命運を握られている無力感から1億総自信喪失症候群に陥ってしまった2010年。

新しい年を迎えた2011年1月、大手町サンケイプラザで「日本を取り巻く世界の緊急課題」と題して、



石 弘光学長、高橋和夫教授、西村成雄教授の3人の各分野のスペシャリストによって、3夜にわたって



公開講座を開催いたしました。

200名の定員は早々に締め切りとなり、当日の会場は平日の夜にもかかわらずすぐに満員となりました。

参加者の皆さんは先生方の講義に熱心に耳を傾けられ、メモをとられていました。講義終了後の質疑応答も活発な議論が繰り広げられ、最後まで会場は大変な熱気に包まれました。

今後もタイムリーなテーマや、学ぶ楽しさを知っていただけるようなテーマを設定して公開講座を開催していく予定です。ご期待ください。

放送大学オリジナル ネクタイ&ストール ができました



3月26日販売開始！ 高級感のある西陣織。

放送大学同窓会連合会では、放送大学グッズとして、ネクタイ(2種)及びストール(1種)の販売を開始します。

販売は、3月26日に開催する学位記授与式の会場及び放送大学本部若葉会館1階の売店での販売を皮切りに、各学習センターへ見本及びチラシを配架し、ファックスで受付を行う通信販売を予定しております。

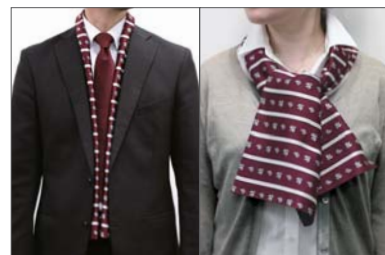
価格は、ネクタイ1本3,800円、ストール1本4,700円で販売予定です。



ネクタイ(赤)



ネクタイ(青)



ストール(男女兼用)

※写真は実際の色とは異なる場合があります。



2010(平成22)年度第1学期から、Web学習システム(LMS)を利用したインターネットによる通信指導『Web通信指導』が一部の科目から始まっています。2011(平成23)年度第1学期からは、択一式の通信指導問題の全科目(学部:256科目、大学院:67科目、夏季集中科目:10科目)が『Web通信指導』の対象となります。

詳細については、キャンパスネットワーク「大学からのお知らせ(大学NEWS)」を確認してください。

お試し科目を用意してありますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

『Web通信指導』の5つのメリット

1

インターネットに接続されたパソコンでいつでも提出できます

『Web通信指導』は、提出期限内(2011(平成23)年度第1学期:5月16日10:00～6月7日24:00)であれば、インターネットに接続されたパソコンで、自宅や外出先、最寄りの学習センターから、いつでも通信指導問題の提出が可能です。(インターネット接続制限のあるパソコンからは提出できない場合があります。)

3

『Web通信指導』で通信指導を提出(送信)すれば、解答を郵送する必要はありません

『Web通信指導』は、学生が解答に使用している「パソコン」と大学本部の「LMSシステム」がインターネットを通じて直接繋がっていますから、『Web通信指導』での通信指導の「提出(送信)」と同時にLMSシステムに「通信指導の提出」が記録されますので、別途、解答を大学へ郵送する必要はありません。

2

すぐに正解とコメント(解説)を確認できます

『Web通信指導』では、通信指導(冊子)と同様に「提出型問題(第1章～第8章)」と「自習型問題(第9章～第15章)」があり、パソコン上で問題を解答して「提出(送信)」すると、すぐに正解とコメント(解説)を確認することができます。

「提出型問題」で正式な提出と見なされるのは「1回目の解答提出(送信)」に限られますが、設問への解答は何度も解き直すことができますので、単位認定試験に向けた学習にも、有効に活用できます。

4

フォーラム(電子掲示板)で担当教員へ直接質問ができます

『Web通信指導』では、一部の科目において「フォーラム(電子掲示板)」が設置されています。担当教員へ授業に関して直接質問をしたり、同じ科目を受講している学生同士で意見交換をしたりすることができます。

(順次、「フォーラム(電子掲示板)」を設置する科目を増やしていきます。)

5

評価結果は郵便でも送付されます

正式な評価結果の通知は、『Web通信指導』でも従来の通信指導(冊子)と同様に、後日、自宅(システムWAKABAに登録された住所)へ郵送されます。



『Web通信指導』の利用にあたって

1.まずは「マニュアル(操作ガイド)」を読んでください

『Web通信指導』は、「システムWAKABA」や「キャンパスネットワーク」とは別のコンピュータシステムで運用しています。利用方法も「システムWAKABA」や「キャンパスネットワーク」とは異なりますので、最初に「マニュアル(操作ガイド)」を読んでから、『Web通信指導』を利用してください。「マニュアル(操作ガイド)」は、Web学習システム:通信指導のトップページから、「ログイン」しなくてもご覧いただけます。

2.「提出型問題」の評価は「1回目の解答提出(送信)」で行われます

「通信指導」は、大学通信教育設置基準第3条第2項の規定による「添削等による指導」として実施されます。つまり、授業の一環として「学生個々の学修(学習)進度を確認し、かつ、理解度を深めてもらうこと」を目的に実施されるものです。端的に言えば、授業の途中で行われる「小テスト」のようなものと言ってもよいでしょう。(成績評価に直接関係する「単位認定試験」とは目的が異なります。)

『Web通信指導』では、パソコン上で問題を解答して提出(送信)すると、すぐに正解とコメント(解説)を学生が確認できますから、教員が学生個々の学修(学習)進度を正確に捉えるために、「1回目の解答提出(送信)」を評価対象としています。

3.利用上の質問や疑問は「Web通信指導よくある質問」を確認してみてください

2010(平成22)年度における『Web通信指導』の利用者の中で、複数の学生から届いた質問・疑問を「Web通信指導よくある質問」にまとめました。まずは「Web通信指導よくある質問」を見て、利用上の疑問等を解決してみてください。「Web通信指導よくある質問」で解決しない場合は、こちら(web-tsushin@ouj.ac.jp)まで問い合わせてください。

2011(平成23)年度大学院 文化科学研究科(修士全科生)入学者選考結果

教務課

修士の学位取得を目指す大学院修士全科生に418人が合格しました。

プログラム名	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	文化情報学	自然環境科学	計
募集人員	90人程度	60人程度	40人程度	120人程度	120人程度	70人程度	500人
出願者数	132人	123人	456人	130人	104人	82人	1,027人
合格者数	87人	52人	33人	96人	87人	63人	418人
倍率	1.5倍	2.4倍	13.8倍	1.4倍	1.2倍	1.3倍	2.5倍

※倍率は出願者数/合格者数

夏季集中科目の学生募集が始まります

広報課・学生課

夏季集中放送授業期間に「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」、「看護師資格取得に資する科目」を開設します。学生募集等の日程は下記のとおりです。

	学校図書館司書教諭資格取得に資する科目	看護師資格取得に資する科目
学生募集要項配布	2011年4月1日(金)～	2011年4月1日(金)～
出願受付期間	2011年5月1日(日)～5月31日(火)	2011年5月1日(日)～5月31日(火)
放送授業期間	2011年7月22日(金)～8月7日(日)	2011年7月22日(金)～8月7日(日)
通信指導提出期限	2011年8月17日(水)	2011年8月17日(水)
単位認定試験	2011年10月19日(水) (単位認定試験レポート提出期限)	2011年9月24日(土) 2011年9月27日(火) いずれか1日を選択

夏季集中科目の受講を希望する方は、大学本部広報課又は最寄りの学習センターまでご連絡ください。この要項はご連絡いただいた方のみに配布します。在学生が履修を希望される場合にも科目登録申請要項(夏季集中型専用)を入手して、必要な手続きをお願いします。

全国の面接授業が検索できるようになりました

学習センター支援室

日程や担当講師など、自分の探したい条件から、全国の面接授業を検索できるようになりました。

「仕事が休みの日に授業を受けたい」「普段テレビ等でしか見られない講師の授業を直接受けてみたい」「この分野を学びたい」など、自分に合った情報から、ご希望の科目をお探しください。

キャンパスネットワークホームページ から

(URL: <https://www.campus.ouj.ac.jp/>)

学習情報

面接授業

面接授業関係情報へ

面接授業概要一覧へ

検索のページへ

クリックすると全国の面接授業が検索できます。

※本学HPのトップページからも検索できます。

編集後記

このお正月の2日間、深夜にNHKで再放映された全12回の「ハーバード白熱教室」を、刺激に満ちた最終回まで見終えることができました。この授業で一番印象に残ったことは、教壇側から映し出される受講生の人種が実に多様であったことです。元旦の朝日新聞には、同大学学長のメッセージが載っていて、これからは、従来の殻を破って多様性を重視する、との方針が伝えられていました。世界の変化に素早く対応しようという決断によって、今後、同大学の卒業生は、国家、民族、人種を超えたネットワークを作って世界中に拡散して、世界をリードして行くことでしょう。開かれた大学を標榜する放送大学もこの変化と無縁ではいけないと思った次第です。(桂井誠)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2011年度)

委員長 教授 松村 祥子
委員 教授 高崎 絹子

准教授 岡崎 友典

准教授 原田 順子

教授 青山 昌文

教授 杉森 哲也

教授 生井澤 寛

准教授 大西 仁

千葉学習センター所長 教授 宮崎 清

東京文京学習センター所長 教授 桂井 誠

編集事務担当 総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp